



「ガマズミ」 伊藤 新一

私のフォトライフ

名古屋市 伊藤 新一 会員

私が日本大判写真家協会に入会した切っ掛けは、「日本大判写真展」公募展への応募でした。数度の出展の後、会員に成りました。

以前は中判の6×4.5のカメラ中心に風景写真を撮影しておりましたが、何時かは大判を撮りたいと思っていましたので、この期に木製のフィールドカメラを購入して、愛知県を中心に各地の山野に撮影に行っております。

始めた頃の撮影結果は酷いもので、20枚現像して半数もまともな物は有りませんでした。ようやく最近になって失敗は2枚程度になりました。ただ今年で63歳になり、さすがに山歩きは厳しく体力の限界を感じます。四季を通じて一年中時間が許せば出かけますが、

日中の太陽の光が溢れる被写体が私の理想ですが、なかなか思いどおりには行きません。光が十分にある生命観の有る被写体は色々な場所で見受けられますが、私はこだわりなく撮ります。

山の緑は四季を通じよく写すテーマです。春は若葉の新緑が生命観溢れ、日差しが柔らかく緑のグラディエーションを美しく見せてくれます。夏には木々の葉は緑を濃くして、空の青は素晴らしく澄み、雲が有れば最高です。秋になれば、山は紅葉の季節です。さまざまな色の競演です。冬には樹氷が枯れ、木に鮮やかな花を咲かせます。この様に樹木は年間を通じて色々な表情を見せてくれます。

また山野草も、大きさは木には及びませんが、生命力溢れ美しい花も見せてくれます。

川はその周辺に様々な植物が見られ被写体は多くあり、又、光が川面に反射して綺麗で、色々な組み合わせが可能です。

個々の被写体だけを写すだけでなく、その物が生きる周辺まで目を配り、全体を通じて作画に一番良く表現出来る範囲を決めます。なるべく邪魔な物だけ省き、多くの物を取り込み、中心になる被写体だけでなくその植物、樹木が生きる世界までを写しています。光はその植物などの支えとなり美しく見せてくれます。

8月研究会のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

当初は第3土曜日に開催する予定でしたが、東京選抜展の開催日程の関係で、8月研究会を以下の日程で開催致します。会員の皆様、奮ってご参加下さい。

日時：8月26日(土) 13:30~15:30

場所：大阪・南船場 大阪写真会館

4階会議室

内容：

1. 作品講評と出展作品の選定

2018展 出展作品の審査を行います。については、1) 当日にポジフィルムのデジタルデータを持参戴くか、2) 原板フィルムを1週間前迄に事務局へ郵送戴くか、いずれかの方法で、各自5点までの作品を審査に提出戴く様、お願い致します。

【モノクロ部会の研究会日程】

神戸市兵庫区に開設した『B&W Labo』に暑さ対策のエアコンを設置し、夏場も快適に暗室作業が出来るようになりました。

8月モノクロ部会研究会は、8月13日(日) 13:00 から開催します。今回のテーマは『大サイズのモノクロプリント製作』です。参考になる動画の鑑賞も行います。

なお、暗室は10時半頃から使用出来るよう準備します。モノクロプリントに興味のある方はモノクロネガフィルムを持参戴くと、モノクロプリント体験が出来ます。

『日本大判写真展』2017 東京選抜展 開催のお知らせ

会長 鈴木 克彦

以前より準備してました『関東会員を中心とした出展者の東京選抜展』を開催します。

写真機商振興会様のご好意により、下記の通り選抜展が出来ることとなりました。

日時：8月16日(水)~22日(火)

場所：「新宿クラシックカメラ博」会場内

特設会場(新宿高島屋11階催会場)

選抜展の会場は、カメラ博の会場内の特設コーナーに、壁面長27メートル強の中に『四全倍プリント9点、全倍プリント6点』で構成します。お時間の取れる方は、是非とも会場へ足をお運び頂きご高覧下さい。

クラシックカメラ展としては日本最大規模で、来場者数も5~6,000人を越える規模になるとのことです。

秋の乗鞍高原撮影会のご案内

撮影会担当 高田 幸二

下記の日程にて、「秋の乗鞍高原撮影会」を催行します。撮影会の詳細につきましては、同封の撮影会案内書をご一読下さい。

今回の撮影会は、乗鞍高原を熟知された名古屋支部の箕浦会員に、現地の撮影ポイントなどを案内して戴きます。

関東からのアクセスも良いので、関東地区の会員方もご参加下さい。標高2000mを超える乗鞍高原で、一足早い紅葉の撮影を楽しみましょう。

日時：10月14日(土)~16日(月) 2泊3日

参加費；29,000円

宿泊場所：休暇村 乗鞍高原

参加人数：最大15名

参加を希望の方は、同封の参加申込みはがきに必要事項を記入し、62円切手を貼付の上、9月29日(金)(当日消印有効)迄に投函して下さい。



「三ツ峠山頂付近にて」 榎垣 茂 1998年1月撮影 8x10, 600mm

私のフォトライフ

浦安市 榎垣 茂 会員

いつ訪れて眺めても、その神々しさと山塊の巨大さに圧倒され、思わずシャッターを切ってしまう富士山ですが、万人に愛されるが所似、満足感のある写真を撮るのは容易ではありません。突き詰めて追求してみると、過去に偉大な写真家の凄い写真に出会い、自分の未熟さを悟るばかりです。今後、ますます温暖化が進む現代では、なお一層、平凡な写真しか撮れなくなるかもしれません。

この写真は富士山を撮り始めた1998年に三ツ峠山頂付近（標高1786m）から撮った写真で、私にとって思い出深い写真です。厳冬の1月から3月まで、8x10の機材をリュックに背負って、富士急吉田駅からタクシーで40分、三ツ峠登山口より標高差700mを2時間ほど登って、二ツ峠山荘に辿り着きます。山荘の主人は中村光吉氏で、芸術談義で夜が更けます。夜明け前は-20℃前後で、慎重にシャッターが切れているかを確認しながら撮影します。納得のいく写真が撮れば下山しますが、それでなければ連泊して、夕方、あくる日の早朝に再トライします。冬の三ツ峠ではこの様な生活が5年ほど続き、一定の成果が上がりました。

広告代理店に勤務していた時、ビール会社の「富士山」という名のビールの新発売キャンペーンを担当しました。富士山の良い写真を使って、印刷媒体を主に広告展開していくこととなり、極め付きの富士山の写真を探しました。フォトライブラリーの有ポジではCD、ADを説得できるレベルのポジがなく、写真家の写真集に掲載されている写真を発見し、交渉することとなりました。ある著名な写真家の写真に決まり、2年間オール媒体の写真使用量として、かなりの高額な写真使用量を支払いました。4x5のオリジナルポジをビューアーで見ているうちに、「そうだバイトで富士を撮ろう」と一念発起、今では私のライフワークの一つになっています。

春の2017展で多数の8x10よりの四全倍のプリントを見て、やはり4x5ポジとは情報量の次元が違うと痛感し、また8x10の撮影を始めようと思っています。フィルムは高価だし、機材の運搬は体力の限界に近いし、8x10にふさわしい被写体の発見に苦勞するしと困難の連続ですが、現像が上がったポジを見る楽しみは格別で、まさに「写真撮影の醍醐味」と言えるのではないのでしょうか。



「厳冬の谷川岳・一ノ倉沢」 広木孝一 2014年1月30日撮影 8x10, 300mm, F45, 1/2s, PL

私のフォトライフ

常陸大宮市 広木 孝一 会員

茨城在住の広木です。登山歴45年、大判写真歴は約20年（8x10は約6年）です。

【撮影スタイル】

私の撮影スタイルは、4x5、8x10を使用し所属するクラブや団体の撮影会を除いては基本的に単独行です。何故ならば、同行者と日程や時間を前もって約束して出掛けても、おおかた自分のイメージ通りでなかったり、雨であったり、或いは時間が遅かったり早かったり、あまりよい印象はありません。ましてデジタル派の人たちとは撮影テンポが全く違うので、同行することはありません。

とにかく気象を読み、時期を選び、チャンスをついながら、いつでも出掛けられる環境にしておくには単独行しか無いと思っています。また、単独行であれば目的地なども簡単に変われますし、気が乗らなければ簡単に引き返すことも可能です。

特に山岳を対象にしているので、山に不慣れな人が同行者だったりすると、相手に気を使ったりで集中できないのは必然的です。

【足回り】

撮影行には車を使用しますが、これは単に移動する手段だけでなく、生活空間でも無ければならないと思っています。

時間に関係なく走り、眠り、食べ、生活をしなければならぬ。要するに車は生活の場でなければならぬと考えています。

山岳撮影が多いので、冬になると冬山装備が増え、かなりの荷物になります。それに車中泊となると、寝る場所、炊事する空間等を考えるとワンボックス車にならざるを得ません。そういう訳で、もう30年以上ワンボックス車に乗っています。

最初は乗用のワンボックス車に乗っていましたが、どうも後部座席が使いにくく感じていました。荷物も積みにくいし、寝るときは座席を倒してフラットにするが座席の凸凹が気になり寝にくい。そんな訳で、どうせいつも単独なのだからと、8年前からハイエースバンに乗り換えました。後部荷室を改造してベッドを載せ、居間兼寝室にしています。年に4万キロも走るので、昨年には2代目の色違いの同じ車に乗り換えました。この車は車体は広いし快適です。

【撮影地】

出来るだけ有名撮影地は避けるようにしています。特に早朝の場所取りで、三脚を立てる場所を取り合うようなところは行かないことにしています。

また、8x10を初めて担ぎ上げて撮るような場合は、まずは一度カメラを持たずに登ってみることにしています。そして、撮影ポイントまでに要する時間、被写体の方角や朝夕の太陽の位置、レンズの焦点距離などを確認します。リンホフ社のマルチフォーカスファインダーを使い、出た数値を2倍すれば8x10で使用するレンズの焦点距離が出ます。更にベストなのは、撮影しようと考えている時間帯に、一度行って確認することです。

実際に予定した時間に撮影ポイントに立ち、カメラをセットしてシャッターを押すだけになったとします。しかしその時、イメージ通りでなかったり、どうするか迷った時には、出来るだけ撮らないことにしています。「せっかく来たのだから一枚ぐらいは…」と思って撮って帰っても、まず作品にはなりません。フィルム代が無駄になるだけなので、そんな時は出直すことにしています。

最後に、「デジタル全盛のこの時代になぜ大判なのか」人にも聞かれ自問自答もしますが、結局のところ答えは簡単「セッティングからシャッターを切るまでのプロセスが、たまらなく面白い」のである。

不便極まりない大判カメラを使って、大判フィルムで撮る写真は、文化そのものであると思っている次第です。

1000mm超望遠大判カメラ製作記

尼崎市 高田 幸二 会員

昨年10月ごろのことです。インターネットのホームページ上で立山の素晴らしい画像を見つけました。青空をバックに雪山の室堂付近、称名滝上部、後ろの山々が映った写真です。私自身、春の立山室堂に行ったことがあるのでその辺りの状況は分かりますが、このアングルはどのようにして称名滝上部を含めて撮影したのか？不思議でした。問い合わせたところ、コンパクトデジタルカメラの望遠で、富山空港から撮影したとのこと。その作品を見て、何とか大判カメラでこのような写真が撮れないかと考えました。

たまたまネットオークションで1000mmレンズが手頃な価格で出品されていたので落札しました。レギュラータイプのレンズなので、フランジバックは約1000mmと長い...



f1000mmレンズ

このような長尺大判カメラはネットの画像で見たことがありますが、市場では見たことがありません。市場に無いなら仕方ない。長尺の大判カメラを自作するしかありません。

長尺の蛇腹の場合、中央部で弛んでしまうのでは？という不安があります。そこでベニヤ板で鏡筒を8割方作り、残りを蛇腹にすると弛みが軽減出来るので、この方法で実行することにします。



1000mmレンズカメラ

蛇腹の後ろに後枠を取り付け、そこにピントグラスを取りつけます。フィルムホルダーはピントグラスの前に入ります。これらはTOYOの部品です。レンズボードはアルミ板を縦、横の寸法に切断し、レンズのサイズに合わせて穴をあけてレンズを組み込みます。

ピント調整はマイクロフォーカス用スライダーを利用して後枠と連結します。これで蛇腹を自由に前後出来るので、ピント合わせがスムーズになります。ベニヤの鏡筒とマイクロフォーカス用スライダーを、長さ1mの空洞の角アルミ棒に固定します。4x5フィルムホルダー、35mmカメラ

ラ、6x7カメラがセット出来るように専用アダプターを各々作ります。



ピント合わせ

今年の3月にはカメラは完成していました。すぐにでも富山県に撮影に行くことを考えましたが、現地の天候は毎日ぐずつき、結局4月下旬に行くことになりました。

富山市の1日目は雨晴海岸からの250ミリレンズで立山連峰の撮影を行いました。



快晴 1000ミリレンズカメラで剣岳を撮影

次に呉羽山展望台に行きました。呉羽山展望台は富山市の中心部にあたり、少し高台となっています。展望台横に駐車出来る嬉しい場所です。あいにく立山上部は雲が掛っており1000ミリレンズカメラの出番はなく残念でした。



呉羽山展望台から立山連峰 曇りが掛っています

2日目は剣岳の見晴しの良い馬場島に移動する予定でしたが、カーナビがうまく作動せず、行くことができません。前日にカーナビを色々触りまくって設定を狂わせたみたいです。サービスエリアで頂いた地図を頼りに進みましたが、うまくいきません。仕方ないので剣岳の見える田んぼから1000mmレンズカメラの威力を試すこととなります。このカメラは鏡筒の面積が広くスローシャッターでは風に弱い… 風の影響を少なくするため絞りを開け、シャッタースピードを速くしたところ、何とかブレずに撮れました。しかし絞りを開けて被写界深度が浅くなってしまったのが影響したのか、どうにもピントに締りがないような気がします。まだまだ色々改良の余地があると感じます。



快晴 1000ミリレンズカメラで剣岳を撮影

3日目は帰宅予定でしたが、午前中雨晴海岸に立ち寄って、再度立山連峰の撮影を考えました。しかし逆光となりあきらめることに…

高速道路を使って一路帰路につきました。あと1日滞在したかったのですが予算の関係で今回の撮影旅行は終わりとなりました。富山県を出た辺りからカーナビが、何もしてないのに正常に戻りました。さて私と立山とカーナビは相性悪いのかな？

折を見て再挑戦するつもりです。



北海道 / 美瑛町 4x5 120ミリ(フルサイズ)

大判カメラの魅力 (その2)

会長 鈴木 克彦

パンフォーカス。人間の目は、ある1点に目を向ければ瞬時にそこにピントが合い、次の場所に目を向ければ、そこにピントが合いその周辺はぼけぼけの状態です。それでも不思議なもので絶えず全体にピントが合っている様に見えます。これが目の錯覚です。カメラ(レンズ)を通して見ればそれが良く理解できます。

大判カメラでは、アオリを使ってパンフォーカスの状態で表現できます。つまり、臨場感を与えることになります。(ただしこれについては議論もあるかも知れませんが)プリント上で全倍以上にプリントされてはじめて、その臨場感が得られる(表現される)と思います。全紙プリントではその臨場感はなかなか分かりにくいものです。結果的に、見る立場になれば癒やしを感じられるものとなります。

しかし、大判カメラで捉えたものと言うだけでは「フウ〜ン」で終わってしまいます。これでは我々大判を使うものとしては、いささか不満が残ります。何が足りないのか？

アオリの効用(応用)へ向かわなければなりません。それは、撮影時に戻って考えていただければ分かります。その場面、場所で何を感じ何を捉えようとしたか？ またどう表現するか？その原点をイメージして、ではそれをどう料理するか？ 味付けは？ つまり撮影者個々人の感性力(センス)で決まって来るからです。

ただ単に大判カメラだからパンフォーカスに捉えれば良いでは物足りないでしょう。そこに大判ならではの『アオリの応用』へと繋がっていくのです。「この場面では何を強調すべきか？遠近感か？空気感か？どこにポイントを持ってくるか？」センスの見せ所です。できれば観る人を「ウ〜ン」と唸らせたい！

遠近感を出したいなら、パンフォーカスにピントを合わせた上で、後枠を後ろ倒しにして調整するのもその一つです。(上記作例)また、よりその空気感を持たせたいと思うならば一例としては、長玉レンズを使うか、あるいは後枠を前倒しして表現するのも良いかもしれません。いずれにせよ撮影者のセンスが問われることには変わりありません。同じ光景でもそれをどう切り取り、どこにポイントを持ってくるかで表現効果が左右されることになります。

※※ 重要なお知らせ ※※

平成29年度年会費振込確認のお願い

本部会計 橋本 雅由

先月号にて平成29年度年会費振込のお願いをご連絡致しましたが、未だお振込みを完了されていない会員は、至急、**年会費18,000円**を下記の口座宛にお振込み戴きます様、宜しくお願い致します。

振込先；ゆうちょ銀行

記号：14440 番号：43090361

(ゆうちょ銀行以外からの振込の場合：

銀行名：ゆうちょ銀行 支店名：四四八

普通口座：4309036

となります)

口座名義：ニホンオオバンシャシンカキョウ
カイ

振込金額：18,000円

振込期限：8月15日(火) 厳守下さい

※年会費の振込完了により平成29年度会員名簿が確定しますので、ご確認の程、宜しくお願い致します。(事務局より)

※※ 編集後記 ※※

先月号でお知らせしました通り、今月号では名古屋支部の会員1名、東日本地区の会員2名の方に「私のフォトライフ」と題して記事を執筆戴きました。読後の感想は如何でしょうか？夫々に示唆に富む内容で、撮影に臨むにあたって大変参考になる記事だと思います。今後も、毎号、数名の会員へ原稿執筆の依頼を致しますが、今月号の記事なども参考に執筆戴きます様、宜しくお願い致します。

8月 大阪 中之島 中央公会堂 大判カメラ体験撮影会のお知らせ

撮影会担当 高田 幸二

先月号にてご連絡の通り、大判カメラでの撮影体験会の受講希望者の方を対象に、下記の通り体験撮影会を開催します。会員の方で大判カメラの操作に不慣れな方も、大判カメラでの撮影の基礎技術を確認する絶好の機会ですので、奮ってご参加下さい。

日時：8月6日(日) 雨天の場合は27日に順延

10:30 大阪市役所正門前に集合

11:00～12:00 午前の部 撮影

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 午後の部 撮影

大判カメラでの撮影技術の指導を、垣内会員と岡村会員が行います。

※撮影会終了後、実行委員会を行いますので、実行委員は残って下さい。